

第3回 横浜市救急医療センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	平成31年1月31日(木) 17時～17時45分
開 催 場 所	横浜市健康福祉総合センター 6階会議室
出 席 者	河原委員長、遠藤委員、恩田委員、林委員
欠 席 者	おち委員
開 催 形 態	公開(傍聴者0人)
議 題	評価報告書(案)について
決 定 事 項	各委員の審議意見をもとに、事務局が評価報告書案の修正を行う。委員長の確認を経て、年度内に報告書を確定、公開する。
資 料	資料 (1) 評価報告書(案) (2) 評価シート(評価報告書別添資料)

議事・質疑要旨

1 評価報告書(案)について

・第2回委員会を経て、事務局が各委員の評価所見及び評点をまとめ、評価報告書案を作成した。

<審議>

(恩田委員)

・評価シート等も合わせて、評価報告書が市民に公表されるということか。

(事務局)

・そのとおりである。

(恩田委員)

・では市民目線で考えると、まず、評価所見の文末の表現が統一されていないため、読みづらい箇所がある。「〇〇のこと。」ではなく「〇〇を求める。」という形で、適宜表現を修正いただきたい。

また、NS、YMIS、NDBという横文字の略語がでてくるため、特にご高齢の方にはわかりにくいと考える。必要に応じて、NSは看護師と書き換える、評価所見内に注釈をいれる等修正いただきたい。句読点の表現も修正いただきたい。

(事務局)

・ご指摘はごもっともである。指摘部分については、修正を行う。また、市民にわかりやすいよう追記するなど、工夫したい。

(河原委員長)

・BCPにも業務継続計画であるという注釈が必要である。

(事務局)

・合わせて修正する。

また、事務局から、1点報告させていただきたい。V-2の収支決算状況の評価所見内に、河原委員長からご意見として、夜間急病センターの患者数で収支を割って求めた、患者1人あたりの収益について記載いただいた。しかし、記載の収益は夜間急病センターと救急相談センターを合わせた収支である。収益性のある事業は、夜間急病センターのみではあるが、この部分に何かしらの修正が必要かと提案する。

(河原委員長)

・公表資料になることを考えると、誤解を招きかねないため、該当部分は削除していただきたい。

(事務局)

・そのように修正する。

(河原委員長)

・これまでの評価を踏まえて、感想でも良いので、他の委員から一言頂きたい。

(林委員)

・この先を考えて、働き方改革についてお伺いしたい。市医師会所属の医師は、夜間急病センター以外の仕事もされている。

市医師会として、何らかの方針を持って動いているか。もし、良い案があれば教えていただきたい。

(指定管理者)

・とても難しい問題だとは感じている。提供しなければ、サービスの低下と言われてしまう部分もある。現時点では、案がない状況である。

(林委員)

・私の担当する救急医学科では、科に所属している人数では、病院に搬送される救急車の件数のすべてに対応できないため、搬送件数と必要な人数を計算し、病院と交渉した。

その結果、人員の増加で完全な交代制勤務ができるようになり、平均して超過勤務時間が10時間未満に抑えられるようになった。実は盲点として、アルバイトの時間は含まれていないが、他科も追随して人数が増えている。総医師人数も増え、病院として土曜の終日化を行っている。

もちろん、医師会所属の医師が自分の仕事を減らしてまで、夜間急病センターで働いてもらうことは難しく、簡単に医師の人数が増えることでもない。今後、何かしらの方策があればご教示いただければと考えている。

(河原委員長)

・働き方改革や新専門医制度で医師の流れが変わっていくと感じている。経営の問題にもかかってくる問題だが、今後関係者が協力して、解決できれば良いと考える。

(遠藤委員)

・会計士として、数字の面での意見となるが、実はこうした対策を行っているという事が数字に表れていなかったと感じた。評価所見にも書いたが、今後、同一労働同一賃金となれば、今のような経営の仕方だとコスト増は避けられない。患者さん、従事者の安全を確

保しながら、別の視点でのコスト削減の方法ができれば、もっとよくなるのではないかと感じている。

(河原委員長)

- ・今年10連休があり、どのように運営していくか対応について努力していただきたい。

(審議 了)